

## 第 2 回勉強会

### 「脳卒中片麻痺上肢に対する積極的治療」参加報告

脳卒中片麻痺の状態になると手指の巧緻性が低下し、ADL に大きな障がいをもたらすことになります。特に利き手が使いづらい場合は、今まで行っていた生活習慣に影響をもたらすことになります。そのために患者様に意欲低下を認めたり、麻痺側を生活に使わない経験を何度も見てきましたし、どのような介入が必要か悩むことが多くあります。

今回の講義を聞いて、麻痺側の行動を変容することで患者様自身が麻痺側を使うことを学びました。麻痺側で課題を達成することで、慢性期でも機能の向上が認められていることから、患者様にとって意味ある作業の提案や目標を決めることで患者様自身が麻痺側を使用する機会を提供しなければならないことを学びました。講義の中で「麻痺側を使用するためにどのような動作が必要か分析を行い、適切な難易度の設定を提供し患者様に理解して頂ける。また自身でモニタリングや問題解決するためにどうするか意欲的に取り組まれる」ことが大変印象的でした。

竹林先生の講義を聞いてからは、自分の患者様に対する関わり方も変化し、少しずつではありますが意味のある作業を聞くことができるようになりました。とても貴重な講義を聞くことができ、今後も実践していきたいと考えています。

今回、お忙しい中でご講演いただきました竹林先生にお礼申し上げます。有難うございました。

大学第 4 期卒業生 Y,S